

3年道徳通信

第3号

第3回『背番号10』

野球部キャプテンの「僕」は、いらいちを皆にぶつけるように注意してしまい、皆の心は離れていきつつありました。そんなある日「僕」は骨折し、数か月野球ができなくなってしまいます。翌日から「僕」は、チームの裏方に徹し、皆を励まします。皆はしだいに「僕」を頼りにするようになりました。夏の大会前、復帰したばかりの「僕」は背番号10を監督からもらいます。皆に向かって礼をした僕に大きな拍手が贈られました。

挫折を乗り越えてキャプテンとしての役割を果たす生徒の物語を通して、自分と周りの人々がどのような思いで関わっているのかを考えました。

みんなの意見

「僕」と「僕」を取り巻く人々との関わりから学んだことは何ですか？

- 「僕」だけ頑張っても良くならないし、けがをしたことで時間ができて、周りの人々を客観的に見るのができたのはよかったと思った。
- けがをしていてもできることはいくらでもあるから、それを自分もやっていけたらいいなと思った。
- 頑張る人を認める人が必要だと思った。
- 自分の意見を押しつけるのではなく、全員の良いところを見てあげて、のばしてあげることが大切だと思った。
- 人間関係がいいとチーム全体の感じも良くなって、目標も大きくなって、人としてもチームとしても大きくなれると思いました。だからケンカとかで悩むのはレベルが低いと思いました。雰囲気良くなるのが大切だと思いました。
- 狭い視野で見ずに、長期にわたって見ることや広い視野で見るのが大切だと思いました。

日々の生活の中で相手を気遣って行動していることは何ですか？

- 走路を走るときに足が痛い人が内側で走れるように声をかける。
- 悩んでいそうなときに聞いたり、だれかがひとりでいるときに声をかけたりする。
- 自分が言われていやなことは言わないように意識している。
- 部活で、後輩やチームのみんなに指示するときは言い方を考えてから言う。
- 部活で、やり方が違っていても怒らずにアドバイスをして、できていたらほめる。

自分と自分を取り巻く人々とは、どのような思いで関わっているのかについて、考えよう。

